

## 令和3年度 未来都市創造に関する特別委員会 委員長報告（案）

未来都市創造に関する特別委員会の活動状況について、ご報告申し上げます。

本委員会は、神戸市会初の試みとして、市当局が提案する政策を<sup>ただ</sup>質すだけではなく、議会の立場から独自の政策提言を行うことを目指して、平成26年度に設置されました。

設置以来、新たな時代の神戸のまちづくり、特に都心・三宮再整備など神戸の将来に大きく影響する課題について、専門的知見などを活用しながら調査・議論を行い、様々なテーマで市長に提言を行ってきました。

令和3年度の本委員会では、新型コロナウイルス感染症を契機に、新たなライフスタイルが生まれ、多様なサービスが活用される中で、「災害に強く、様々な危機にしなやかに対応できる回復力・復元力（レジリエンス）の高いまちづくり」や「神戸ならではの歴史や地形を活かしたまちづくり」をテーマに、幅広い観点から調査・議論を行いました。

委員会では、当局からの報告聴取に加え、テーマを定めて4人の参考人を招致し、意見聴取及び意見交換を行うとともに、各委員の課題認識に基づいた委員間討議を積極的に行いました。

参考人招致では、まず、建築設計集団「<sup>アルテミー</sup>ALTEMY」代表で、建築家の<sup>つがわ</sup>津川<sup>えり</sup>恵理氏を迎え、人々の多様な感性が創り出す「パフォーマンスな公共」をテーマに、意見聴取を行いました。

委員会では、国内外の様々なパブリックスペースの事例を参考にしながら、訪れた人々が、様々な感性で行動し、能動的に過ごすことのできる都市空間づくりなどについて、意見交換や討議を行いました。

次に、西日本鉄道株式会社 自動車事業本部 未来モビリティサービス担当課長の<sup>ひだか</sup>日高<sup>さとし</sup>悟氏から、「西日本鉄道の<sup>マース</sup>Maasに関する取り組み」をテーマに、オンラインで意見聴取を行いました。

委員会では、既に九州で取り組みが進められている<sup>マース</sup>Maasの導入事例とその効

果や、神戸に導入する際のポイント、公共交通の課題と今後の展望などについて、意見交換や討議を行いました。

次に、園田学園女子大学名誉教授の <sup>たなべ</sup> 田辺 <sup>まこと</sup> 真人 氏から、「歴史や地形を活かした神戸の街づくり」をテーマに、神戸駅前広場の再整備を中心に、意見聴取を行いました。

委員会では、神戸の持つ豊かな地域資源を活かしたまちづくりや、独自のストーリー性を持たせた発信方法、西国街道や湊川神社との連続性を考えた神戸駅前広場のデザインなどについて、意見交換や討議を行いました。

次に、東京工業大学 環境・社会理工学院 教授の <sup>あさくら</sup> 朝倉 <sup>やすお</sup> 康夫 氏から、「三宮クロススクエアの交通課題」をテーマに、オンラインで意見聴取を行いました。

委員会では、三宮クロススクエアの社会実験結果を検証しながら、ポストコロナ・ウイズコロナ時代の都心部のあり方や、道路空間の再配分に向けた課題などについて、意見交換や討議を行いました。

これらの調査活動を踏まえ、委員間討議を重ねた結果、計10項目にわたる提言書「様々な危機にしなやかに対応できる神戸のまちづくり」を取りまとめ、5月13日に久元市長に提出いたしました。

提言内容を少しご紹介しますと、環境やSDGsの観点では、ヒートアイランド対策としての緑化の推進、環境に配慮した自転車道や駐輪場の整備など、交通という観点では、移動権を保障する交通の整備や、様々な交通手段のベストミックスによる誰もが移動しやすいまちづくりの推進など、新たなテクノロジーという観点では、AIを利用したデマンド交通の推進や、非接触型のインフラ整備、空飛ぶ車やドローンの活用などを見据えた空の道の整備など、ハードそのものの在り方という観点では、未来を見据えたインフラ整備の検討や、新型コロナを契機とする様々な変化への柔軟な対応など、独自の歴史や地形の活用という観点では、神戸駅前における湊川神社との一体感を考えたモニュメントの整備など、様々な観点から提言させていただきました。提言

は委員間討議を経て、各会派間の意見の相違を乗り越え、多様性を認め合って取りまとめたものですが、それでもなお、提言に至らなかった項目があったことも申し添えます。

5月27日には、委員会の活動状況や市長への提言内容を市民の皆さんにご報告するため、市民報告会を本会議場で開催いたしました。参加者の皆さんからは多くの質問やご意見をいただき、活発な意見交換を行うことができました。

以上、委員会の活動状況についてご報告を申し上げましたが、当局におかれましては、新型コロナウイルス感染症の経験も踏まえ、様々な危機にしなやかに対応できる神戸のまちづくりの実現に向けて、本委員会からの提言内容も考慮しながら、取り組んでいただくよう要望し、委員長報告といたします。